

第14回 庁舎建設検討委員会 会議録（要旨）

開催日時 平成27年11月26日（木） 15:00～17:00
開催場所 大桑村中央公民館 第2会議室
出席者 委員9名（欠席：池口、櫻井、下起）、古谷庁舎建設準備室長
傍聴者 1名

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 経過報告
 - ・10/22 第13回庁舎建設検討委員会（施設規模機能等）
 - ・10/29 第9回庁舎建設庁内検討委員会（施設規模機能等）
 - ・11/2.4.17.20 村政懇談会（須原、下在、中公、野尻）
 - ・11/16 新庁舎建設に関する意見を伺う会（文化協会・生涯学習講座関係者）
 - ・11/24 新庁舎内図書館に関する懇談会
4. 議題
 - （1）各種団体の入居について
 - （2）施設の規模、機能について（庁内検討委員会の検討結果から）
 - （3）その他
5. その他
 - ・次回会議日程 12月22日（火）15:00～（終了後忘年会実施）
6. 閉会

3. 経過報告

- ・村政懇談会（事務局概要説明）
- ・新庁舎(複合施設)建設に関する意見を伺う会（文化協会、生涯学習講座関係者）
（事務局説明【別添資料「意見聴取」】）
- ・新庁舎内図書館に関する懇談会（事務局説明【別添資料「意見聴取」】）

4. 協議事項

（1）各種団体の入居について

事務局：かねてより、社会福祉協議会、商工会、森林組合、JA、郵便局に、新庁舎への入居についての検討をいただいていた。先日の森林組合理事会を最後に、全ての団体からの正式な回答が揃った。結果、新庁舎にはどの団体も入居しないということである。

障害者就労支援のカフェ経営については、現状では社協の運営体制が困難ということ。当面、「談話コーナーに飲料自動販売機」というイメージとするが、将来カフェ経営ができるようになった時のために、対応できるようなスペースに配慮する（カウンター程度）ということ結論付けたい。

委員：今でも、役場庁舎を出て、役場の駐車場で話をしている人を見かける。ゆっくり

話ができる談話コーナーの要望は多い。

(2) 施設の規模、機能について（庁内検討委員会の検討結果から）

事務局：庁内検討委員会検討結果資料説明 P3/6～【交流エリア（コミュニティーゾーン）】

【多目的ホールについて】

事務局：今回の「意見を伺う会」で文化団体から出された意見、要望は、これまでに庁内検討委員会で検討され、検討結果に反映されてきた事項がほとんどではあった。その中で、多目的ホール（文化ホール）の規模、機能については、出席者の中でも賛否があったところ。住民それぞれ価値観も違うところだが、いずれ方向性を決めなければいけない。ご意見を伺いたい。

委員：「意見を伺う会」では、きちんとした文化ホールを造るべきだという意見もあったが、「身の丈」を過剰に意識して、あまりにも質素で貧乏臭いものは造って欲しくないという趣旨だと受け止めた。そのためにある程度金がかかってもしょうがないということであり、立派な文化ホールでなければだめだという様な意向ではなかったと思う。

委員：現状の活動状況とこれからどのような用途で使用するのかということから、規模、機能（音響性能の程度等）を考えて、現実的に必要な規模＝適正規模を検討する必要がある。

委員：理想とする施設を造っても、実際に活用する機会がないような施設ではもったいない。視察先でも、その後の管理、運営に苦労している「立派な施設」の事例を見てきた。実際の利用頻度、利用価値は考慮すべきである。

事務局：現在、野尻地区館ホールで開催している最大規模の村行事は敬老会（130～150程度の宴席）だが、すし詰め状態で不都合。地区館ホールにステージを足したくらいの面積が適当。その規模であれば、文化発表会や、成人式、表彰式、各種講演会、映画会等にもちょうどいい大きさではないか。現状の諸行事から考えると、本格的な音楽会用の音響設備や劇場並みの舞台設備は必要ない。日常的には間仕切りで複数の会議室として使用し、年に数回、これらの行事の時に広く使うことができる様なステージ付きホールが、当村にとって適正な規模、機能であるというのが、庁内検討委員会の検討結果である。

委員：平谷村のような本格的なホールは必要ないが、例えばあてら荘のステージ程度では小さすぎて、ほとんど使い道がない。

委員：地区館には移動式（折りたたみ式）のステージがあるが、重く、設置や片付けが大変で危険なので、使用することが面倒になってしまう。また、不安定、滑りやすい等、不都合が多いので、できるなら固定の専用ステージがいい。

委員：それなりのステージがあれば、発表する側の姿勢も変わり、様々な可能性も広がる。施設をどう活用するかを考えることで発展することもある。そういう観点も必要と思う。

委員：防災の拠点として、学校の体育館とは違った避難所としての多目的ホールの利用価値もある。ステージも、発表の場としてだけではなく、災害時には布団を敷いたり、物資を置いたり様々な機能を発揮できる施設になり得る。活用次第である。行事の時にしか使わない、贅沢で無駄な機能ではないと思う。各機能の必要性を考え、

無駄なものではないということが結論付けられるものならいいと思う。

委員：ステージ下の活用も含め、普段は物置的に活用できればそれもいい。

委員：「多目的ホール」として常設の固定階段席は必要ない。階段席を作るとすれば移動（収納）式になるだろうが、それを設置するのかどうか。

事務局：移動式でも階段席を設置するとなると、後方は頭が届いてしまうので、ある程度天井を高くする必要がある。となると、間仕切りで日常的に会議室として兼用するには天井が高すぎて不都合かもしれない。結果、会議室と兼用はできず、ホール専用として年に数回しか使用しない部屋になってしまうかもしれない。構造のことは、プロポーザルで設計士に委ねるところでもあるが。

委員：文化団体等として、今後の活動を発展的に展開していく上で、文化ホールへの熱い思いがあれば、施設機能のレベルを上げる再検討をすべきとも考えられるが、そうでもないのなら、庁内検討委員会の検討結果どおりの考え方でいいのではないか。

【明日を語る集いについて】

委員：来年開催予定の「大桑村の明日を語る集い」の進め方について。この資料は、あくまで職員案の段階だが、これだけ詳細に検討案がまとまっていると、これ以上何を話すのかということになる。内容を確認するだけの会議になってしまう。

委員：今後様々な機会に様々な意見が出てくると思うし、その様な意見を聴いて更に検討を深めることが大切。

委員：ある程度白紙の状態で見聞を伺って、今まで検討されていない意見要望が出されれば、それに対して検討していくということでもいいのではないか。

委員：検討委員会としてもここまで検討してきたわけで、それは参加者にも理解して欲しいし、それをベースにまだまだ意見を伺いたいのだということをやうまく伝えたい。

委員：検討結果の資料を出せば、もう決まっているじゃないかと思われ、出さなければ今まで検討委員会は何をしていたのかと言われそう。その辺のバランスをやうまくとりながら、意見が出やすいような進め方を工夫するという。難しいが・・・。

委員：去年の「集い」で出された意見については、今までほぼ検討され、反映されてきた。去年出された意見を基に展開するのもいいかもしれない。

【ATM について】

事務局：ATM の設置については、かつて村内に ATM があった長野県労働金庫からは不可能との返事をもたらしている。JA には設置してもらえよう要望を続けたいが、JA の立場では、利用度、利便性から考えて大桑駅周辺にあった方がいいのかもしれない。JA 大桑支所の移転先を含め、今後 JA として検討をいただく問題。

委員：できれば一か所で用事を済ませたい。庁舎に郵便局と JA の ATM があれば便利。

委員：ATM が設置されるとすれば、建物内ではなく屋外の方が使い勝手がいいと思う。軒先とか、傘がいらないうところがいい。

委員：ATM が庁舎の建物の中に入るとするのは、一般の方が使いにくくなってしまうので考えづらい。P5「コミュニティーゾーン」から除外して「外構」にし、屋外に設置することを前提に検討するというようにして欲しい。